

校長室だより

令和7年12月 5日(金)

第 32 号

十日町市立中条中学校校長室

ようこそ先輩講演会

11月27日(木)に、ようこそ先輩講演会を行いました。講師は当校の卒業生で、長年新潟県の小学校教員で活躍された一方で様々なテレビ出演や活動をされておられる樋熊 敏文様をお迎えしました。インタビューや手品を交えてあつという間の時間でした。概要をお知らせします。

「大きな夢小さな夢、どんどん描いていきましょう ～向き不向きより前向きに～」 樋熊 敏文 様



50年前に中条中学校を卒業した変わり者です。5年前に校長を退職しました。私は学校の様々な場面でかぶり物をしていました。職員でバンドを作ったり、運動会でかぶり物をしたり。運動会では白と赤の衣装を作りました。この衣装です。手作りです。中条中では青と赤なのでこの衣装使えませんね。同窓会でもわざわざ野球部のユニフォームを複製して参加しました。その変わり者がどうしてこうなったかをお話しします。

学歴詐称はないか証明するために、卒業証書を探しました。見つかりませんでした。でも通知表が見つかったのでお見せします。(19.2秒) 所見を見てください。先週見たのです。当時はすごいことが書いてありました。「今の根性があれば大物にはなれなくても人間として素晴らしい生き方ができるものと確信しています。」すごいでしょう。担任の先生が確信してくれていたのです。「大物になれない」と言われた樋熊少年はどういう夢を描いたのかを話します。

「夢は必ずかなう」「あきらめなければ実現する」というものの、なかなかうまくいかないものです。この先、変わり者の先輩がつまずいたことを思いだしてもらえたたらと思います。

「大物になれない樋熊少年の大きな夢小さな夢」をいくつかお話しします。一つめは昆虫博士を目指しました。図書館で伝記を読みあさり、ファーブル昆虫記が目に留まり昆虫博士になりたいと思いました。いくつかの科学的研究をしました。小学4年生の担任の先生が発表会の学年代表に選んでくれました。全校の前で発表することになりました。内容はともかく題名がよかつたようで学校代表に選ばされました。この経験から人前で話すことの喜びを知りました。児童会の副会長にも立候補しました。

二つ目は、旧ジャニーズを目指しました。誰にも言えませんでしたが、歌やダンスの練習でなくバク転の練習をしました。できるようになりました。当時、芸能の雑誌を読みあさり芸能事務所の入り方を探しましたが、分かりませんでした。

三つめはジャニーズが無理でもテレビで歌って踊りたいです。母からは音痴と言われましたが、NHKのど自慢に出ました。バク転をしたり、手品をしたりして予選を通りました。3回テレビに出ましたが、鐘1~2つでした。

四つ目は、本気でプロ野球選手を目指しました。中条中学校の野球部に入りました。守備はそこそこでしたが、通算打率は1割以下でした。諦めました。

その時の体育の先生が「樋熊はジャンプ力があるから郡市陸上大会の走高跳に出たらどうだ」と勧めてくれました。なんと6位入賞、成功体験です。またその先生が体育のバレーボールの授業で「樋熊、打ち方いいね」とほめてくれました。それが五つ目の夢になります。

五つ目は、中学校の体育教師を目指しました。高校ではバレーボール部に入り、保健体育の授業を頑張りました。バレーボール部の大会の成績も地区大会止まりで、進学の時に飛びぬけ

た得意種目がないために体育大学の推薦入試は受けられないとthoughtいました。

そこで夢の修正をしました。当時の担任の先生が「樋熊は推薦されるほどの特定のスポーツがないから、小学校の先生に向いている」と言ってもらい、私立の教員養成系の大学を探してくれました。受験し何とか合格しました。

関東の大学に行くと、楽しいことがいっぱいです。六つ目は、先生もいいけどお笑い芸人もいいなと思いました。当時はお笑いブームでした。樋熊少年は、ものまねでテレビ出演を目指しました。田原俊彦のものまねで番組のオーディションにも挑戦しました。テレビには出演できましたが、残念ながらスカウトされませんでした。

その時の大学の先生が、「お笑い芸人になれなくても、小学校の先生になれば、毎日、毎時間、教室で子どもの前でお笑い授業ができるぞ」と勧めてくれました。子どもは逃げることのできないお客様?と思いました。教育実習は母校の中条小学校に行きました。初日の挨拶でバク転をしました。中条の子どもは素直で優しい。こんな子どもが待っているなら小学校の先生になりたいと思いました。教員採用試験の勉強は頑張りました。中条小の子どもたちが私を本気してくれました。



教師になって気付いたことは、「教師の仕事は、今までの夢をかなえるために頑張ったことがすべて生かせる。いろいろなプロになりきることができる」でした。あるときは昆虫博士、あるときはスポーツ選手、あるときはアイドルやお笑い芸人。教師になってからプラスされた夢は? 校長になろうと思いました。校長になれば、全校の前でいろいろなことができる。逃げられないお客様(児童)が増えると思いました。校長になってから、かぶり物をしたり、手品をしたり、ヒーローに変身したりしました。三条の新聞にも取り上げてもらいました。ここで手品を見せましょう。道具をもってきました。(当校の教員と一緒にやりました)



私の話をまとめます。私が皆さんにお話したいことは、「大きな夢小さな夢、どんどん描いていきましょう」です。全てかなうとは限りませんが、その夢をかなえるための努力は、その後の人生で活きます。今の夢に向けて、向き不向きを気にするより、前向きに挑戦していきましょう。

最後にお願いです。教員はやりがいのある仕事です。しかし、今教員が不足しています。大変な面もありますが、児童生徒の成長が実感でき、あるときはミュージシャン、あるときは芸人になれる素晴らしい仕事です。目の前にあることに前向きに取り組み、困ったときは今日のことを思い出してください。職業選択の一つに教員を入れてください。教員を目指してくれる生徒さんが一人でもいてくれたらうれしいです。

講演会後の生徒の感想から

「向き不向きより前向きに挑戦しようという言葉が印象に残りました。私は向いているか結構気にします。そんなことは気にせず、前向きに挑戦しようと思いました。」

「私たちに夢を教えてくれました。ほんの少しのきっかけで大きな夢を持てるということが分かりました。夢に向かって取り組めるという行動力があると思いました。私は行動よりもめんどくさいが来てしまうので、見習いたいです。」

「何回失敗しても七転び八起きの精神でこれからも生きることを頑張りたいと思いました。たくさんの人との出会いが挑戦するきっかけになったことが分かりました。自分のやりたいことに対して前向きに、いろいろなことにどんどん挑戦したいと思いました。」

「夢を叶えることができなくても、夢を叶えるまでの過程が今後の人生に生きるということが印象的でした。私もたくさん夢を見付けて実現するように努力したいと思いました。」